

平成29年度 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

日 時：平成30年3月19日（月）午後2時から3時40分まで

場 所：旭川市職員会館2階 第2・3会議室

出席者：委員6名

堀川陽子委員，沖全委員，高柳修委員，濱塚努委員，鬼塚幹雄委員，大矢二郎委員  
各町8名

鷹栖町総務企画課	山原参事
東神楽町まちづくり推進課	栗林主査
当麻町まちづくり推進課	岩井中主幹
比布町総務企画課まちづくり推進室	千葉主任
愛別町総務企画課	山中課長
上川町企画総務課	小路課長
東川町企画総務課写真文化首都創生室	柳澤主任
美瑛町政策調整課	松岡主任

上川総合振興局

地域政策部地域政策課 石井課長，榎波主査

事務局（旭川市）4名

総合政策部政策調整課：佐藤次長，上代主幹，森田補佐，水野

傍聴者：なし

会議資料：次第

- 資料1 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会委員名簿
- 資料2 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱
- 資料3 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会の会議運営（案）
- 資料4 上川中部定住自立圏構想の概要
- 資料5 定住自立圏形成協定の変更等について
- 資料6 上川中部定住自立圏共生ビジョン（案）
- 資料7 定住自立圏構想推進要綱
- 資料8 定住自立圏構想推進のための地方財政措置について

## 【会議内容】

### 1 開会

### 2 委員紹介（資料1）

（各委員，各町からの出席者を事務局が紹介。）

### 3 懇談会

#### (1) 座長，副座長選出（資料2）

##### ア 座長の選出

（事務局の佐藤次長が仮議長となり，座長の選出を行った。）

（事務局一任となり，事務局は大矢委員を座長に推薦し，了承された。）

##### イ 副座長の選出

（座長は，副座長に鬼塚委員を選任し，了承された。）

#### (2) 会議ルールについて（資料3）

（事務局から説明。提案のとおり了承された。）

#### (3) 上川中部定住自立圏構想の概要と懇談会の目的について（資料4）

（事務局から説明）

#### (4) 議事

##### ア 定住自立圏形成協定及び共生ビジョンの変更について（資料5・資料6）

〈定住自立圏形成協定及び共生ビジョンの変更〉

（事務局から説明）

○次年度は，既存1事業の内容変更がある。

○変更内容は，鷹栖町，東神楽町，東川町との間で連携している「企業誘致推進事業」である。変更理由は，企業立地促進法が改正され，地域未来投資促進法が施行されたことに伴い文言を修正するものである。

○その結果，連携事業数は，今年度から変更がなく，29事業。

〈共生ビジョンの変更について〉

（事務局から説明）

○形成協定の変更に伴い，共生ビジョンの内容を変更するものであり，該当ページは，「企業誘致推進事業」が記載されている28ページである。

○昨年度，定住自立圏構想推進要綱の一部改正において設定が求められていた上川中部圏定住自立圏域の将来像（将来人口及び高齢化率の目標値）及び各項目における成果指標（KPI）についても現状値を記載している。

イ 今後の新たな広域連携へ向けた意見交換について

(座長)

○改めて定住自立圏共生ビジョンを確認すると、圏域全体の傾向として人口減少が進んでいる中で東神楽町及び東川町は人口増となっているが、考えられる要因はあるか。

(委員)

○東神楽町において人口が増加しているが、旭川からの移住がほとんどを占めている。ひじり野地区の宅地造成が終了している中で、今後の方策について検討していく必要がある。

(委員)

○東川町では、移住を促進するために賃貸アパートの建設に対して資金的な補助をしてきた。最近では、道外からの移住者が喫茶店などを経営している事例もある。

(座長)

○東川町は、織田コレクションの公有化など文化的事業に注力しているように感じられる。旧東川小を「文化芸術交流センター」として活用したり、高校生を対象とする「写真甲子園」の継続的な実施したりするなど、交流人口の増加につながる事業を実施している。

(委員)

○町立の日本語学校も運営しているが、その生徒数はビジョンに記載がある人口には計上されていないはずである。

(座長)

○旭川市の人口は直近の国勢調査で34万人を割り込み、減少傾向がはっきりしているが、方策によっては、減少の程度を緩和することができると思う。人口が減少している中で、世帯数が微増しているのは、単身世帯など核家族化が進行しているということだろう。

○ビジョンには様々な取組について記載があるが、更に連携を強めていく必要があるのではないか。

(委員)

○当町でも、人口減少が進んでいる。高齢化は致し方ないとして、出生が少なくなってきたことは大きな課題。生活が大変だということが理由ではなく、結婚や子育てなどについて若年層の考え方が変化してきているのではないか。

○福祉分野での取組として、高齢者の買物支援を実施している。社会福祉協議会のボランティアが対応している。

(座長)

○高齢者が生活する上で大きな課題が冬期の除雪。

(委員)

○除雪については、ボランティアが実施しているが、運営が年々厳しくなっている。高齢者に冬季間だけ集合住宅に住んでもらう取組なども検討している。

(座長)

○現在、西神楽で地区の農家を支援する取組を実施しており、農業者が集合して居住する仕掛けづくりを検討している。除雪や子育て、新規就農支援などの分野で効果があると考えている。

(委員)

○広域といえば、今、「大雪カムイミンタラDMO」としてスキーリゾート形成に向けた取組が推進されている。当町にあるスキー場でも日本人学校の生徒を通訳として、インストラク

ターと一緒に外国人にスキーを指導するなどの取組を推進している。

(座長)

○東南アジア圏の方は、雪への関心が強い。東川町の日本語学校ではどこの国から来る生徒が多いのか。

(委員)

○総合的には台湾からの生徒が多いが、現在はタイが多くなっている。

(座長)

○旭川においても、駅前などを見ると、明らかに外国人観光客が増加している。子どもが深い雪に飛び込んで遊んでいる姿をみると、我々が気づいていないだけで、実は雪そのものに魅力があるのだと思う。DMOのみならず、地域の魅力を効果的にPRすることで、より多くの方に足を運んでもらう可能性はある。ニセコ周辺には、オーストラリアからの方が既に多く滞在しているが、雪質では上川圏域もニセコに負けていない。

(委員)

○(外国人は) 除々に増加していくのがいいのかもしれない。

○外国からの来訪者のほとんどは千歳経由。旭川空港がさらに活用されるようになるとよい。

(座長)

○旭川空港では現在、新たな国際線ターミナルの供用開始に向けて取組が進められていて、空港一括民営化に向けた検討も進められている。旭川空港は欠航率が低く、その点では千歳よりも優位性があるといえる。

(委員)

○当町も観光に注力しているが、仕事柄、建設業界における人材不足が顕著になってきている。工事の無人化や機械化を進めているが、人口の推移から、今後、より厳しい状況になることが予想される。

(座長)

○人手不足はどの業界でも深刻。ロボットやAIなどが一部はカバーしていくと考えるが、除雪はどうか。

(委員)

○オペレーターが不足している。賃金の支払が十分だとしても人が集まらない。

(委員)

○除雪について、役場が除雪機を町内会に貸し出す取組がある。

(座長)

○操縦は、誰でも可能なのか。最近、個人で所有している方が増えているが。

(事務局)

○旭川市でも同様の取組はある。また、融雪槽の設置等に対して補助をしている。

(委員)

○除雪で困る年代の方は、機械操作に困難があるかもしれない。

(振興局)

○町の除雪機購入に当たっては、振興局からも支援している。

(座長)

○そうした制度を有効に活用する必要がある。

(委員)

○当町でも人口が減少している。基幹産業は農業であるが、どうしたらいいのか特効薬はない状況。上川中部においては、旭川市が中心になり様々な取組を進めているが、まだ定住自立圏の取組として位置づけられていない取組においても、今後、協力していく必要がある。

(座長)

○愛別町といえば、特産物として、きのこが有名だが、生産の状況はどうか。

(委員)

○一時期は好調であったが、いつまで継続できるかは不透明。最初は個人生産が多かったが、最近是集積されてきている。産地間競争が激化している。

(座長)

○比布町のいちごも後継者不足から生産が難しくなってきたという話を聞いた。これからは若者に地域に留まってもらう方策を考える必要がある。多くの若者が高校、大学を卒業すると域外へ出て行ってしまう。今後、若者の受け皿をいかに準備していくかが鍵。私が勤務していた大学が閉校になった主な理由は、入学する学生がいなくなったからだ。外から流入してくる人を増加させることも大切だが、現在、この地域で生活している人が流出していかないようにすることも重要である。

○共生ビジョンの中で、2040年の人口推計を32万人としているが、達成はなかなか困難かもしれない。少しでも人口の減少を抑止する方策を検討していく必要がある。

○共生ビジョンの29施策の中で、重点的に取り組む事業として、例えば、観光がある。ビジョンの中では「観光パンフレットを作成する」などとあるが、今、私たちが旅行する際は、まずインターネットで訪問先の情報を確認する。その点で、今の旭川市の外国人向けホームページは市民向けのホームページを単に翻訳しているだけで、改善の余地がある。

○話は変わるが、国の定住自立圏の要綱に「少なくとも、一年に一回、圏域内のすべての市町村長による懇談の場を設ける」とされているが、実施しているのか。

(事務局)

○他の会議を実施する際に、あわせて協議している。

(座長)

○広域での課題としては、JRの路線維持問題もあるが、取組を進めているのか。

(事務局)

○旭川市としては、富良野線、宗谷線、石北線の各協議会に参画し、協議している。

(座長)

○単一の自治体で解決できる課題ではないと思うが、外国人の乗客は増加しているように思う。住民として、路線を維持することについてどのように考えているのか。

(委員)

○維持してほしいと考えている。

(座長)

○先日、岡山を訪問したが、電車に乗客が自転車を積み込んでいる場面を目撃した。上川地域は、ロングツーリングをする上で魅力的な地域だと言われているが、そのような工夫も必要ではないか。

(委員)

○「センチュリーライド」や「ツール・ド・北海道」などのイベントもある。

(座長)

○旭川市は「川のまち」であり、堤防がサイクリストにとって良好なコースになっている。ネットワーク化を図り、走行距離や所要時間などに合わせてコース設定をすれば、自転車に乗る人も更に増加するのではないか。

自転車が日常の交通手段として市民に更に親しまれるポテンシャルはある。オランダやデンマークでは、交通手段として自転車が普及しており、自転車専用道も整備されている。上川地域の車道には、雪堆積スペースがあるので、夏は自転車専用レーンとして活用してみてもどうか。例えば、自転車を電車で載せて美瑛に移動し、自転車で旭川に戻ってくるようにすれば、下り坂で快適なサイクリングが楽しめる。

○昨年、東川町で植樹祭に参加した。上川地域は、木製家具の一大産地であり、素材から製品まで地場でまかなえることも魅力のひとつであるので、そのようなことも発信したい。

(委員)

○当町では、町産の木材を庁舎に活用しているほか、家を建築する際に町産の木材を提供している。

(座長)

○40年間旭川に居住しているが、まちの街路樹が少ないように感じる。東京の方が緑豊かであるように思う。現在の駅前広場に樹木を植える計画もあったが、機能性の向上等の観点から実現しなかった。

(委員)

○当町では、宅地造成の際に、緑地帯を設け、そこを居住者全員で管理する事例がある。

(委員)

○座長から緑が少ないとの話があったが、旭川の写真等で見ると、緑が多くあるように思われる。

(座長)

○それは望遠レンズのマジックで、近づいてみると実際は少ない。

○広域で取り組んでいく事案として、防災も重要であると考え。人口減少を抑制していく上では、今後も互いに協力して何ができるのかを少しでも検討する必要がある。

(5) その他

○特になし

5 閉会

以上